

リンパ浮腫に対する看護師の指導の現状と 患者のリンパ浮腫発生状況・対処方法の実際

1 病棟 4 階西

松本慶子 酒井祐美 西村京子 前田榮子
相村光枝

I はじめに

子宮癌・卵巣癌などの術後に発症する可能性のあるリンパ浮腫は、いったん発症すると完治することは難しい¹⁾。厚生労働省研究班²⁾の報告によると、下肢リンパ浮腫は婦人科術後の3年までに28%の発症率である。しかし、現状では早期発症から対処を行なっている施設は少なく、患者のQOLに大きく関与しているに関わらず、予防および治療を目的としたケアはほとんど行なわれていない。^{3) 4)}野田ら⁵⁾は、「術後のリンパ浮腫の問題点は①いつ症状がでるか分からない疾患であること、②全員が発症する病気ではないこと、③浮腫に個人差が大きいこと、④死ぬ病気ではないこと、⑤浮腫が慢性化した場合は永久に管理保護が必要な疾患であること、である。以上より発症してから医療者により積極的な治療が行なわれていないのが現状となっている」と述べている。

当院産婦人科においても、リンパ浮腫に対する指導は充分とは言えず、積極的な関わりが出来ていないのが現状である。そこで今回、骨盤内リンパ節郭清を受けた患者への看護師の指導状況、患者のリンパ浮腫発生時の対処方法及び予防方法の現状を明らかにし、今後の指導の方向性を知る事を目的として現状調査を行ったのでここに報告する。

II 研究方法

1. 調査期間

平成17年7月1日～7月31日

2. 対象

当院産婦人科で平成14年から平成17年3月までに婦人科手術にて骨盤内リンパ節郭清を受けた患者のうち、平成17年7月に産婦人科外来を受診し、本研究に同意の得られた患者24名と同期間に入院中の患者3名の計27名。内訳は追加治療（化学療法・放射線療法）を受けた患者16名、追加治療を受けていない患者11名である。

3. 調査方法

当院産婦人科病棟と外来においてアンケート調査を行なった。

4. 分析方法

χ^2 検定を用い、有意水準を5%とした。

III 結果

アンケート回収率は100%であった。対象の平均年齢は 55.9 ± 10.6 歳であった。

1. 看護師の指導実施状況

入院中看護師の患者に対する指導実施率は51.9%（14名）であった。さらに、追加治療別に看護師の指導実施状況をみると、追加治療を受けた患者16名のうち、指導を受けたものは11名、指導を受けなかったものは5名であり、追加治療を受けていない患者11名のうち、指導を受けたものは3名、指導を受けなかったものは8名であった。（表1）追加治療を受けた患者の方が受けていない患者よりも指導実施率が高かった（ $p < 0.05$ ）。また、看護師の指導の時期は「手術前」3名、「手術後1週間以内」3名、「手術後1週間から3ヶ月まで」7名、「退院時」1名で

あった。

2. 浮腫の有無と状況

術後浮腫が発生した患者は44.4%（12名）であった。発生時期は平均4.6ヶ月であった。浮腫が発生した患者12名はすべて追加治療を受けており、浮腫が発症していない患者15名のうち追加治療を受けたものは4名、追加治療のないものは11名であった。（表2）

浮腫が発生した患者12名のうち発生の部位は、「足首」8名、「ふくらはぎ」8名、「足背」6名、「大腿」3名、「陰部」3名（複数回答）であった。また、浮腫発生時の症状は、「だるい」7名、「重たい」7名、「痛い」3名（複数回答）であった。

3. 浮腫発生と指導時期

指導した14名のうち、4名は浮腫発症後の指導であった。

4. 浮腫発生時の対処方法及び浮腫予防方法

浮腫発生時の対処方法・予防方法を6項目（「休憩する」「長時間歩かない」「足を挙げて休む」「用手マッサージ」「弾性ストッキングの使用」「マッサージ器の使用」）について、4段階評定（「行なっている」「まあまあ行なっている」「あまり行なっていない」「行なっていない」）を行い、最も多いものを調べた。その結果、リンパ浮腫が発生した患者12名の浮腫発生時の対処方法としては、「長時間歩かない」「足を挙げて休む」は「行なっている」が最も多く、「休憩する」「用手マッサージ」は「まあまあ行なっている」が最も多かった。弾性ストッキング、マッサージ器の使用は「行なっていない」が最も多かった。（図1）予防法について見ると、「休憩する」「長時間歩かない」「足を挙げて休む」は「行なっている」が最も多く、「用手マッサージ」は「まあまあ行なっている」が最も多く、弾性ストッキング、マッサージ器の使用は「行なっていない」が最も多かった。（図2）一方、リンパ浮腫が発生していない患者15名の予防方法は、「休憩」のみ「まあまあ行なっている」が最も多く、それ以外は「行なっていない」が最も多かった。（図3）予防方法を「行っている」「まあまあ行っている」ものを「実施群」、「あまり行っていない」「行っていない」ものを「非実施群」とし、指導した14名と指導していない13名で実施率を比較してみると、予防法の実施率に差は見られなかった。浮腫が発生した患者に対して、浮腫発生時の対処方法についてみてみると、休憩の項目のみ指導した患者の実施が高い傾向にあった。

IV 考察

浮腫の発生率は対象の5割弱であり、厚生労働省研究班の報告よりも本院の浮腫発生率は高い結果であった。

看護師の患者に対する指導の実施率は約5割であり、指導を受けた患者の約8割は追加治療を受けた患者であった。指導を受けた患者の約3割は浮腫発生後に指導を行っていることが明らかになった。追加治療を受けず手術のみで退院する患者への指導が少ないことが分かったが、入院期間が短縮される傾向にある現状の中、入院中に繰り返し十分な知識を提供する事は難しいため、短期間に少ない回数で有効的な指導を行う事が望まれる。

また、浮腫が発生した患者の浮腫発生時の対処方法、予防方法ともに「休憩する」「長時間あるかない」「足を挙げて休む」「用手マッサージ」がよく行われる傾向にあった。またリンパ浮腫が発生していない患者の予防法は「休憩する」が多い傾向にあった。また、予防方法、対処方法のいずれにおいても、「弾性ストッキング」「マッサージ器の使用」はほとんど行われておらず、患者は身近

で簡単な方法を選択していた。さらに指導を受けた患者と受けていない患者では、予防法の実施率に差は見られなかった。この事より患者が予防法を取る事が出来るような有効な指導が行えていない現状があると考え。弾性ストッキング、マッサージ器の使用の具体的な指導、かつ患者が活用できる指導方法の検討の必要がある。一方、浮腫発生時の対処方法において「休憩する」のみ、指導した患者に実施率に違いが見られる傾向にあった。

本院では指導を受けている患者も受けていない患者も予防を行っている患者は少なく指導が活用されていなかった。予防はリンパ浮腫の管理に最も重要である^{2) 6) 7)}。看護師はリンパ浮腫の早期発見、予防・増悪の軽減において重要な役割を担うことを認識し、リンパ浮腫が患者にもたらす影響をすこしでも減らすように機能する必要がある。今後、リンパ浮腫予防方法の指導と、リンパ浮腫発生時に適切な対処行動がとれるようにする指導の必要性が明らかになった。

V まとめ

1. 本院における看護師のリンパ浮腫に対する指導の実施率は約5割であり、その3割は浮腫発生後であった。指導を実施した患者の約8割の患者は追加治療を受けた患者であった。
2. リンパ浮腫の発生率は約5割弱であり、追加治療を受けた患者の約8割に浮腫が発生しており、追加治療を受けていない患者には浮腫は発生していなかった。
3. 指導を受けた患者と受けていない患者の予防方法に差はなかった。
4. 浮腫が発生した患者の浮腫発生時の対処方法、予防方法ともに「休憩する」「長時間あるかない」「足を挙げて休む」「用手マッサージ」がよく行われ、リンパ浮腫が発生していない患者の予防法は「休憩する」が多い傾向にあった。患者は、身近で簡単な予防・対処方法を選択していた。
5. 指導を受けた患者で、浮腫が発症した者のうち、浮腫発症時の対処方法として「休憩する」のみ、実施率が高い傾向にあった。

以上の事から、浮腫発症率を軽減する為に、指導の実施率を上げるとともに、効果的な指導の必要性が明らかになった。さらに指導内容としては、予防の重要性を教育するとともに患者が自発的に対処や予防が出来るような具体的な指導方法の検討が必要である事が明らかになった。

[引用・参考文献]

- 1) 近藤敬子:子宮がん術後続発性右下肢リンパ浮腫のケア. 臨床看護, 30 (9), 1408-1416, 2004.
- 2) 佐々木 寛: 腹腔鏡補助腔式子宮全摘術の予後および婦人科癌における術後下肢浮腫改善手術の開発. 厚生労働省研究 (がん克服戦略研究事業) 平成 14 年度報告書.
- 3) 小川佳宏: リンパ浮腫治療の基本構想 浮腫が軽減するとはどういうことか. 看護学雑誌, 68 (7) 626-630, 2004.
- 4) 和泉秀子: リンパ浮腫ケアにおける看護マネージメント. ターミナルケア, 14:107-111, 2004
- 5) 野田雅也, 工藤隆一: ここが聞きたい 産婦人科外来における対処と処方. 臨床産婦人科, 57 (4) :605, 2003.
- 6) カレン・ジェンス: マネージメントの指針. リンパ浮腫 適切なケアの知識と技術, p93-108, 中央法規, 2003.
- 7) 平川 恵子: 初めてのリンパ浮腫予防ケアの計画実践. 臨床看護, 30 (9) :1399-1407 2004.

表1 看護師の指導の有無と追加治療の有無

追加治療の有無 \ 指導の有無	指導あり	指導なし
	治療あり	11
治療なし	3	8

(人)

表2 浮腫の有無と追加治療の有無

追加治療の有無 \ 浮腫の有無	浮腫あり	浮腫なし
	治療あり	12
治療なし	0	11

(人)

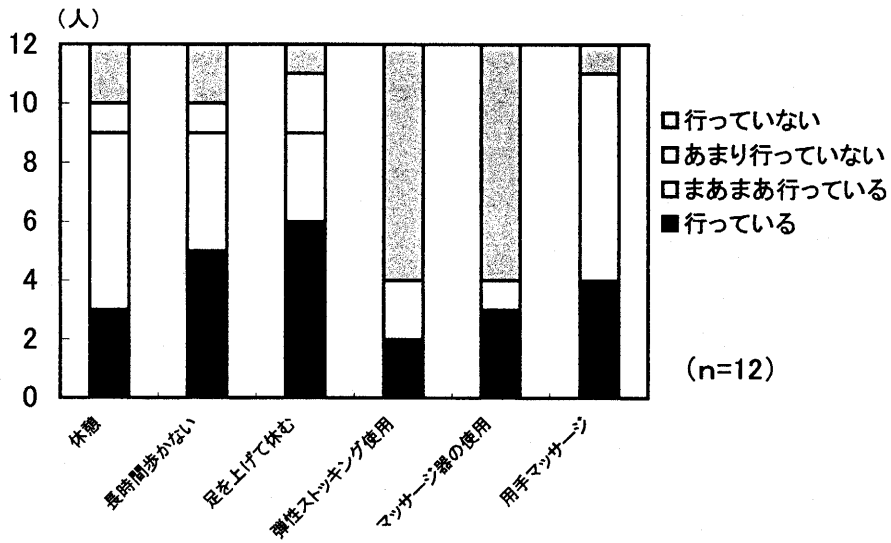


図1 浮腫が発生した患者の項目別対処方法

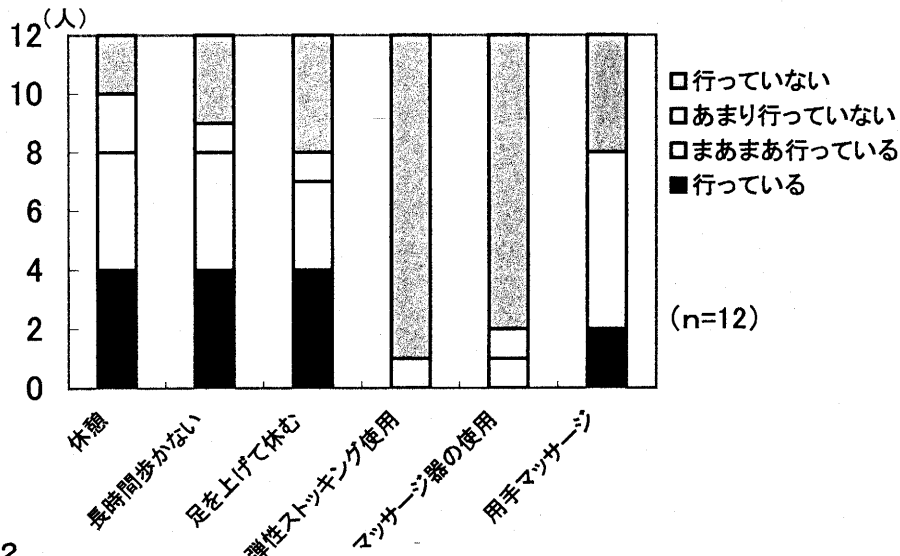


図2 浮腫が発生した人の項目別予防方法と実施状況

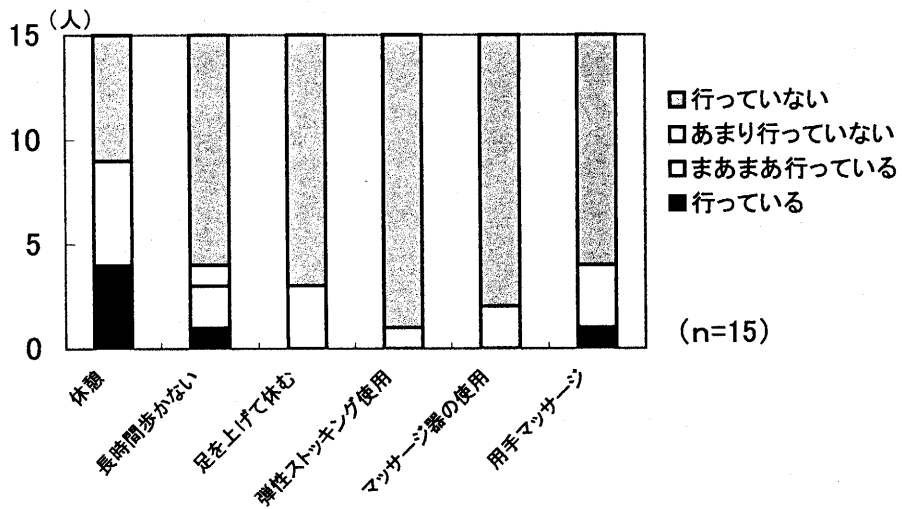


図3 浮腫が発生していない人の項目別予防方法